

## 千葉市農業基本計画（案）に対する意見及び意見への考え方

番号	ページ	項目名	意見の概要	意見に対する考え方（案）	計画案への反映 ○：反映する －：反映しない
1	2	第1章 2（1）	“今回策定する千葉市農業基本計画（・・・）の計画期間は、・・・令和5年4月1日から令和10年3月31日までの5年間（アクションプラン）とします”と記載されています。アクションプランという文言が計画期間にカッコ書きで記述されている理由を説明してください。	令和12年度（2030年）を見据えた基本目標とそれを達成するための5年間のアクションプランとの関係性を分かりやすくするため記載しております。	－
2	3	第1章 2（2）	“市街化区域内で展開される農業を「都市農業」、また市街化区域内農地を「都市農地」とそれぞれ位置づけ”と前段の“将来的な担い手の候補が多くいると思われる都市部においても約200haの農地がある・・・という千葉市の特性を踏まえ”の関連性が理解できません。今までの市内全域での農業を「都市農業」とする定義から、市街化区域内の農業を「都市農業」とする定義に変え、さらに新たに「都市農地」の定義付けしたことだけだと思えます。なお定義を変更した理由は、本計画の目標に合致しやすいからだと推察します。	第8章に記載のとおり、「都市農業」の定義の変更にあたっては、比較的人口が集中している都市部においても農地が存在しているという千葉市の特性に着目しております。 第1章に本計画の法的位置付けを記載する関係上、第8章に記載している変更に至った経緯をここでも記載しております。	－
3	4	第2章	表1に農業従事者数の目標と達成数値が示されています。一方P1、第1章1の第3段落において“基幹的農業従事者”の人数が示されています。両者の関連性、違いについて説明願います。	「農業従事者」とは、「15歳以上の世帯員で年間1日以上自営農業に従事した者」を指します。一方で、「基幹的農業従事者」とは、「15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者」を指しています。 なお、両者については、巻末参考資料の「用語の説明」において説明を記載しています。	－
4	4	第2章	表1において、先ず和暦表示に西暦を併記してください。目標値（A）は平成23年4月に設定されたので、（平成32年）の表記は正しいと思います。西暦を併記することで平成32年：2020年の目標値と令和2年：2020年の数値（B）と比較しての達成率は正しいと分かります。	ご意見のとおり和暦表示に西暦を併記します。	○
5	49, 52	第6章	“40代以下の青年農業者”という言葉が使われていますが、40代には49歳の農業者も含まれます。青年と呼ぶのは相応しくないと考えます。“30代以下の青年農業者”が適切だと思います。そして30代以下の青年農業者を対象とした対策を講じないと基本目標の達成は難しいと思います。	農林水産省の新規就農者向けの支援策（「新規就農者育成総合対策」）では、40代以下を支援の対象としており、また、40代以下の農業従事者の拡大を目標としています。 このような国の支援策とも調和を図る必要があることから原案の記載のままとします。	－
6	50	第6章	図51 農産物販売金額規模別の農業経営体数（全国（北海道除く））は、農産物販売金額規模別の農業経営体数増減率（全国（北海道除く））が適切だと思います。	ご意見のとおり記載を修正します。	○
7	50, 52	第6章	農産物販売金額300万円以下は他と比べて減少率が大きいですが、販売金額規模だけが理由ではないような気がします。年齢・兼業等なども要因かもしれません。また、農産物販売金額300万円以上3,000万円以下の減少率は、特筆する数字ではないような気がします。農産物販売金額3,000万円以上だけが增加している結果を見て、3,000万円を基本目標のターゲットとするのは視点が違うような気がします。	ご意見ありがとうございます。 2020年農林業センサスの結果から、全国的にも3,000万円が安定的な農業経営の目安になることが分かりましたので、千葉市の農業の持続性を高めるための基本目標として設定しています。	－
8	52	第6章	基本目標のサブタイトルである“売上3,000万円以上を目指し、農業が若者に選ばれる職業となるよう、農業の魅力が高める”は違和感を覚えます。現状千葉市での売上3,000万円以上の個人経営者の比率がどの程度なのか分かりませんが、感じとしてかなり少ないと思います。すると農業経営の法人化しか考えられないこととなります。P.53の農業経営モデルの経営形態を家族経営としていますが、労働力として常時パートに期待しており、従来の家族経営とは異なるようです。	ご意見ありがとうございます。 基本目標のとおり、千葉市の農業と食を未来につなぐためには、持続性を高めることが必要です。そのためには、40代以下の青年農業者を確保・育成するとともに、安定的な農業経営の目安になる3000万円以上の販売規模層を増やすことが必要であり、そのことが分かるようにサブテーマを設定しました。 いただいたご意見については、今後の取組を進めていくにあたって参考にさせていただきます。	－

## 千葉市農業基本計画（案）に対する意見及び意見への考え方

番号	ページ	項目名	意見の概要	意見に対する考え方（案）	計画案への反映 ○：反映する －：反映しない
9	55	P.55 第6章 2 (3)	(3) 農林業が市民生活に与えるめぐみに関する施策展開の方向性において、先ず、“農村”という言葉が適切だと思います。次に“本市の農業・農村と森林が持つ多様な機能”の“農業・農村”を二つ並べる意図がわかりません。単に“農と森林”でよいと思います。	“農業”は、食料を供給する機能の他、国土保全等の多様な機能を、“農村”は農業の持続的な発展の基盤となる機能や農地を中心とした景観形成等の機能をそれぞれ持っています。 このように、“農業”と“農村”はそれぞれ異なる機能を持っていることから併記しています。	－
10	63,64	第7章(1)	施策2 アクションプラン No.6, No.8の表において、拡充、継続にもかかわらず、令和3年度末が“－”（未実施?）となっています。説明が必要と思います。	より分かりやすくなるよう、P.57のアクションプランの凡例の5の欄に以下の記載を追加します。 <u>(追加する記載)</u> 令和4年度から実施している取り組みや令和5年度から新たに始める取り組みの場合は、令和3年度末は「－」としています。	○